

## ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- 民族間の疑惑と不信を除こう
- 世界を友愛と信頼の絆で結ぼう

# 高崎ユネスコ

<http://takasaki.gunma-unesco.com>

UST

発行所

高崎ユネスコ協会

高崎市高松町35番地1

(〒370-8501)

高崎市市民部

防犯・青少年課内

電話 (027)321-1297



受賞風景

①はじめに  
本日は何かとご多用の中、多数の皆様方がご参加下さいまして、誠にありがとうございます。

併せて、市長、市議会議長、教育長ほか多数のご来賓の方々のご臨席のもとに高崎ユネスコ合同表彰式が、このように盛大に開催できることを大変喜ばしく思います。

②受賞を祝します  
入賞者の皆さん、本日の受賞おめでとうございます。それぞ

れ大変立派な賞に輝きました。保護者の皆さんやご家族の方々にもお祝い申し上げます。

このたびの国際児童画展と作品の募集には、市内の小中学校・特別支援学校から多くの作品が寄せられ、審査の結果、児童画展では111名が、作文では66名が入賞しました。

入賞した作品はどれも大変素晴らしい、レベルの高いものでした。国際児童画展では、1週間の展示期間に4・134名もの入場者があり、関心の高さを感じました。

3年前、富岡製糸場と絹産業遺産群が世界文化遺産に登録されました。いま、高崎市内にある、上野三碑のユネスコ世界記憶遺産への登録を目指していますが、今年6～7月頃の登録決まりを期待しているところです。

高崎ユネスコ協会は、その他にも、ユネスコ青少年キャンプ、国際理解バスなど様々な活動を年間を通して行っています。

③ユネスコの活動を紹介します  
ユネスコは、1946年、今から70年前に国際連合の一つの機関として教育・科学・文化的活動を通して世界の平和と人類の福祉という目的を促進するための機関が設立されました。ユネスコ憲章の前文にある「戦争は人の中に生まれるものであるから、人の心中に平和の砦を築かなくてはならない」という文言は、ユネスコ設立の主旨をよく表しています。ここに平和を求める強い願いが込め

④応募者や関係者の皆さんに感謝します  
入賞した児童生徒の皆さん、及びその背中を押してください。また保護者の皆様、さらにご指導くださいました学校の先生方にも感謝申し上げます。

また、ご支援を賜りました関係諸団体の皆様方に深甚なる感謝を申し上げる次第であります。

私たちの心の中に  
平和の砦を築きましょう!

第4回高崎ユネスコ国際児童画・作文の合同表彰式のあいさつより

高崎ユネスコ協会会長 横口 克己



高崎市少年少女合唱団





児童画講評

賞 今回『高崎ユネスコ協会長賞』を受賞した北部小学校一年

生の郷古渉翔さんの作品は、子猫たちの追いかけっこを、お母さん猫が笑顔で見つめている絵です。お母さん猫の優しそうな笑顔、そして、思い思いに飛び回る元気な子猫たちの表情や動きが、黒い画面に鮮やかな絵の具で生き生きと描かれていました。画面いっぱいに躍動感が感じられる力作でした。

長野郷中学校二年生の涌井綾菜さんの作品は、静かな町並みを流れる川を描いた風景画です。明るい日差しを受けて輝く川面や木の葉、瓦屋根の一枚一枚が丁寧に描かれています。川辺のフェンスと、その影の明暗のコントラストも見事です。中央を流れ川に遠近法が使われており、見る人の目線が川から空へと導かれ、すがすがしい空の広がりが感じられる作品でした。

入賞した皆さんの作品は、どんづら、しょうをもらえてうれしかったです。かぞくのみんなもと

このたびは、受賞された児童生徒の皆さん、そして保護者の皆様、おめでとうございます。

今年度のユネスコ児童画展は、昨年の十月二十八日から六日間、高崎市シティーギャラリーにおいて、市内の各小・中・特別支援学校の素晴らしい作品が展示されました。出品総数は小学校

が八四三点、中学校三四三点が会場を彩り、訪れる方々の目を魅了しました。

今回の審査に当たり、今年も児童生徒の皆さんのが発想の豊かさ、作品に対する思いの深さを感じ取ることができました。

小学校低学年の作品は、見たことや感じたことを素直に明るくのびのびと表した作品が多くなりました。

高学年の作品になると、たくさんの色を使って丹念に描かれており、觀察力や表現力、根気強さなどの成長を感じ取ることができました。

中学生の作品は、静物画、自画像、風景画、デザイン画など的作品があり、すべての作品から、時間をかけて一生懸命に制作してきたことが感じ取れました。どの作品も自分の思いを込めてしっかりと作品に向かい合っており、迫力のある仕上がりになっていました。



審査員代表 高崎市立片岡小学校 久保田美智子

## 第四十四回 高崎ユネスコ国際児童画展の講評

### ユネスコ協会長賞を受賞して

北部小学校1年 郷古 渉翔

長野郷中学校2年 涌井 綾菜



郷古渉翔さんの作品



涌井綾菜さんの作品

生の郷古渉翔さんの作品は、子猫たちの追いかけっこを、お母さん猫が笑顔で見つめている絵です。お母さん猫の優しそうな笑顔、そして、思い思いに飛び回る元気な子猫たちの表情や動きが、黒い画面に鮮やかな絵の具で生き生きと描かれていました。画面いっぱいに躍動感が感じられる力作でした。

長野郷中学校2年 涌井 綾菜

長野郷中学校2年 涌井 綾菜

この絵は、私の家の近くを描いたものです。ちょうど上に歩いたとき、川のまっすぐ先に山が見えるのが印象に残ったので描きました。

### ユネスコ協会長賞を受賞して

てもよろこんでくれました。ほくのえを見て、すごい気持ちになつてくたりしたらいなどおもいます。

「ぼくは、このえをかくまえに100まんかい生きたネコ」という本をよみました。そして、おはなしのつづきをそぞうしてぼくは、100まんかい生きたネコと白ネコは、きっと天ごくで、ずっとのしく生きているのだろうなどおもいました。その中には、子ネコたちとたぬきがあそぶネコをかきました。

天ごくだから金いろのネコについているとおもつて、金いろになりました。ネコのもようをはみ出さないようにぬるのが大へんでした。

えをかくのは大へんだったけど、しょうをもらえてうれしかったです。かぞくのみんなもと

川を中心として、全体のバランスを取るのが難しかったです。この絵には陰影を多く使って、影で夏らしさを取り入れていました。

川を中心として、全体のバランスを取るのが難しかったです。この絵には陰影を多く使って、影で夏らしさを取り入れています。町並や木々の自然を中心としたながらも、空をそのまま描き、なじむように工夫しています。

このような賞をいただくことができたと知つて、改めて絵に関心を高めることができました。これからも、風情のある作品を学んで描いていきたいと思いま

## 第四十四回

### 高崎ユネスコ作文集の講評

高崎ユネスコ協会作文部長 高崎市立佐野中学校 品田 京子

今年度も、高崎市内の児童生徒から、世界平和を願い平和の心を育てる作文を公募しましたところ、小学校は六百四十七編、中学校は七百十三編の作文が寄せられました。小学校からの参加校数は年々増えていますが、今年度は中学校からの参加校数が昨年度よりも減少してしまつたのが残念でした。

応募作品は、十六名の審査員がそれぞれの作品を精読し、慎

重に審査を行い、作文集の掲載三十点の優秀作品を選定いたしました。

応募作品の題材は、世界平和、国際理解、国際協力、日本や地域の伝統文化継承、環境問題やボランティア活動など多方面にわたっていましたが、昨年度同様今年度も、思いやりの大切さを扱った作品が多数ありました。

**高崎ユネスコ協会長賞**  
岩平小学校 五年 矢澤颯基

ぼくの家の近所の方々は、みんなやさしくぼくに話しかけてくれます。朝は、「おはよう、気をつけて行ってらっしゃい。」

帰りは、「おかげり、帰つてくるのを待つていたよ。」

ぼくは元気に笑顔でいいさつをしたり、返事をしたりします。

ぼくの通う小学校は児童数が少ないので、近所には子供が少なくて、

「まごのようでかわいい。」

と言つてくれる人もいます。下校中に一人で歩いている時には、わざわざ家から出てきてくれて、「颯基君、野菜を持つていい?」

と声をかけてくれる人もあります。

ぼくは名前でよんでもらつて、気にかけてくださることがとて

い、伝統文化に関わる体験、メディアで取り上げられた内容等を基に、平和を願い、よりよい世界や社会のために何ができるか、自分なりに考え、自分の言葉で発信していくこうとする作品が数多くありました。どの作品にも、子どもたちのエネルギーや創造性、自発性を感じられ、審査員に未来への希望と力を与えてくれました。子どもたちの大純粹な平和への希求を私たち大人がしつかりと受け止め、平和な社会を築いていかなければならぬと改めて痛感しました。最後になりましたが、第四十



作文講評

四回『ユネスコ作文集』が、次代を担う子どもたちに国際協力の精神を養い、平和の心を育てる一助になることを念じるとともに、応募にあたりご指導いただいた各学校の先生方や作文の審査にご尽力くださいました高崎市小中学校主任会、関係各位のご協力に、心から感謝を申し上げます。

だから、この間となりのおじさんから、「大きいスイカを切つたけれど、二人では食べ切れないから半分とりにおいて」と、電話がかかってきました。ぼくは、お母さんとともにらいに行きました。その時に、「夏休みにりん海学校でスイカわりをする。」

とおじさんに話したら、おじさんは、「スイカわりの練習をして、颯基が一番最初にスイカをわかれ。」

と言いました。おじさんはぼくを畑へ連れて行つてくれて、スイカわり用に二個とつてくれました。家に帰つて、さつそくスイカわりをしました。となりの



矢澤颯基さん

おじさんも外に出ていたので、応えんしてくれて、五回目ぐらいでわれました。ぼくはおじさんに、「りん海学校でもがんばるね。スイカありがとうございます。」

また、学校でも地域の方がおみづくりや野菜、きのこ、里山整備などボランティアで参加してくれています。ぼくたちは、地域の方のおかげで、家ではやつたことのないうどん作りやしめなわ作りなど、楽しい体験がいくつもできます。また、運動会でおどるししまいも教えてくださいます。地域の伝統に参加できるので、少しきんちょうしますが、みんなに見てもらえて、手をもらえるので、「おどつてよかつたな。」と気持ちがいいです。

ぼくの住む地域の方たちは、みんなとても親切です。そして、見守つてくださっています。何かあつた時や困つた時、どんな時でも助けてくださる人ばかりです。ぼくは、笑顔でいいさつをしたり、大きな声で返事をしたり、話したりすることしか今はできないけれど、大人になつたら、みんなに親切にしてもらつた恩返しをしたいです。

友だちが笑顔で話しかけてく

被爆した。僕の祖父、曾祖母はこの日、下された。長崎には原爆ファットマンが投下された。

されると、ぼくはとても気持ちよくなれるかもしれません。だから、今はぼくも幸せな気持ちがあります。いつもやさしく声をかけて見守ってくれたり、いろいろ教えてくださったりする近所や地域の方が、ぼくは大好きです。ぼくの住む地域のようなやさしい目がたくさんあれば、誰でも悪いことはできないと思います。そうすれば、大きな事件もなくなると思います。ぼくは、笑顔と元気なさいさつはとても大事なことだと、みんなに大きな声で伝えたいです。

## 高崎ユネスコ協会長賞

### キノコ雲は消えても

佐野中学校 三年 前川 洋輝

青く広い空に立ちのぼる積乱雲。セミはなき、人々は異常気象によるあつさに苦しむ。

家庭でチョウをながめていた僕は、立ちのぼる積乱雲を見て當時に思いをはせ目を閉じた。今年の八月のことである。

またこの日がやってきた。八月六日、九日。七十年前のこの日、広島に原爆リトルボーリー、長崎には原爆ファットマンが投下された。

僕の祖父、曾祖母はこの日、

八月六日、友達と話しながら登校した祖父は、飛行機の音をきいた。おかしい。サイレンも鳴らない。

「あれは、日本の飛行機かな?」

何か光るもののが空に見えたのはその後だ。

「キラキラしたものが落ちてき

た。何だろうな?」

隣に大きな黒いかたまりがお

ちている。木だらうか。やけに

大きく、太い枝が一本横にとび

でいる。信じられなかつた。

信じたくなかった。それが今ま

で話していた友達の変わり果て

た姿だなんて。祖父はまずこそこら抜けだそうと、上にたおれ

てきて熱線をさえぎつたコンク

リートの下でもがいた。

僕が知っているのはここまでだ。祖父は、母にこの話をした

後は、二度と戦争、原爆について語らなかつたそうだ。毎年夏

に、テレビで戦争の特集をやつ

ていても、すぐにテレビを消し

たそうだ。その後も祖父は被爆による病に苦しんだ。祖父はそ

の沈黙により、戦争のおそれしさを伝えた。

同じく大きな木の下で熱線をまぬがれた曾祖母は、語り部として、多くの講演会に出席した。

近くの高校に講演に行つた時に、ある言葉を何度も、何度も、涙ながらにうつたえた。

「戦争はおわつても、それを経験した人の苦しみ、悲しみはおわらない。あの日のキノコ雲は消えても、まだまだ世界の戦争の脅威はおわらない。二度と同じ過ちをくりかえしてはならない。」

その小さな体からは想像できないほど力強い声でそううつたえだそうだ。曾祖母は、語り部として、戦争のおそれしさを伝えた。戦争のおそれしさを伝えたい。

日本は戦争に敗れた。それでよかつたという意見をよく聞く。

もし日本が勝っていたら、他の国の人々と同じ悲しみにおとし

いれていただろう。一瞬で何万、何十万人の命をうばう原爆。

生き残った人も水を求めて川に飛びこみ、命をおとす。

日本は世界でただ一つの被爆

国だ。だからこそ、日本国民にしかできないことがある。何をするべきか考える義務が私たちにある。僕の祖父は被爆による病で亡くなった。僕は、いわ

静かに、おだやかにそう語つた。

今、この世界にも、核兵器を保有し、実験を続けている国が

まだある。それに賛同している

国もある。それらの国は、日本で起きた悲劇を知っているのだ

だ。

世界で唯一の被爆国日本の

中の、やはり世界でただ二つの被爆地である、「ヒロシマ」と

「ナガサキ」。今や世界中に知

れわたつたであろうこの二都市

の人々、当時被爆した人々、そ

れを語り継ぐ人々、だれか一人

でも欠けると、原爆、戦争のお

そろしさは伝えていけない。

しかし、非常に悲しいことに、今

の日本には、終戦日さえ知ら

い人もいる。実際に被爆した

人々は、いずれ世界から一人も

いなくなる。しかし、それは同

時に、語りつぐべき戦争も起こ

らないということでもある。

今、中学生である僕たちは、



前川洋輝さん

ゆる被爆三世だ。だからこそ、あるいはその次の世代である。あの日失われたいくつもの尊い命の犠牲をむだにしないように語りついには、もつと知る必要がある。この平和な日本を保ちつつ、戦争の脅威や原爆のおそれしさを伝えにこう言った。

祖父は、亡くなる前日に、母にこう言った。

「人との意見がぶつかるのはいい。それを武力、力づくで解決せず、話しあつて解決しろ。戦争は意見のぶつかりや、あらそいなどの生易しいものではない。

殺しあいだ。おろかな行為

争は意見のぶつかりや、あらそいなどの生易しいものではない。

せず、話しあつて解決しろ。戦

争は意見のぶつかりや、あらそいなどの生易しいものではない。

殺しあいだ。おろかな行為

被爆した人々の次の次、あるいはその次の世代である。あの日失われたいくつもの尊い命の犠牲をむだにしないように語りついには、もつと知る必要がある。この平和な日本を保ちつつ、戦争の脅威や原爆のおそれしさを伝えにこう言った。

青く広い空に立ちのぼる積乱雲。セミはなき、人々は異常気象による暑さに苦しむ。その暑さは熱線の熱さではない。戦後、力強く発展してきた日本だからこそできるとは何だろう。きっと、いくつもあるはずだ。それを世界に広げていこう。

## ご協力ありがとうございました!!

平成28年度の「コ・アクション募金」と「書きそんじはがき回収キャンペーン」の成果は以下の通りです。

コ・アクション募金	55,975円
書きそんじはがき回収キャンペーン	444,035円
上記の净財は、熊本大地震義捐金、東日本大震災罹災者への教育支援、「世界寺子屋運動」の資金として使われます。ご協力に感謝いたします。	

## 第37回

### 子どもの幸せを 考える研究集会

→親になること→

講師 市川えみ子先生

平成二十八年十一月十三日に、

市川えみ子先生をお迎えして、

子どもの幸せを考える研究集会

が開かれました。先生は十三年

間教育相談を勤め、その後も電

話相談を続けておられます。ま

た、カウンセリング協会にも創

立時より一貫して関わっておら

- \* 幼児は肌を離せ、手を離すな
- \* 少年は手を離せ、目を離すな
- \* 青年は目を離せ、心を離すな
- \* 子どもは親のいうようにはならないが、親のようになる
- \* 子どもたちが間違いを犯しながら経験を積む機会を親の私が奪うことのないよう

(関西のミッショナリ系の私立学校のパンフレットから)

\* 子どもを不幸にする一番の方法は?それはいつでも何でも手に入るようにしてやること

たくさんのご経験にも関わらず、上から目線ではなく、自らの子育てを通して教えられたこともいくつかお話し下さいました。

ご子息の子育てに行き詰まり、ご子息が信じられなくなりそうになつた時期があつたそうです。そんな時に、エレベーターに寄りかかって乗つていたら立派な紳士から「お先にどうぞ」手を差し出され自分の姿が恥ずかしくなつた、という話を聞いた時や、大学の留年が決まつた際、「俺より落ち込まないで」と言われた時などに、「息子を信じることが私の仕事」と改めて思えたとのことです。

「本当に困難な場面で子ども

を信じてやることができるか」「自らの子どものことを自分の責任として引き受けることができた時に初めて親になるのです」などの言葉が印象に残っています。

(アンリルソー)  
\* 育てるためにはやはり「任せきる」ことが一番です  
（バレーボール日本代表チーム  
主将 竹下佳江）

\* 母親に必要な3つのこと

① 母親役を降り、私に戻れる時間を持つ

② 子育てに協力してくれる人がいるという実感

③ 自身が社会と繋がっていること

以上のお話の後、十五分くらいの残り時間を使ってグループに別れ、言葉の繋ぎ遊びをしました。「私は今」という言葉から始まって順番に一行の文を繋いでいきます。前人の一行だけ読んで書きます。最後に全部

を繋げて一つの文章になります。

改めて、人は一人では生きているではないと思い、人の繋がりを大切にしたいと思いました。

米田さんは、平成二十四年度

を繋げて一つの文章になります。

改めて、人は一人では生きてい

るのではないと思い、人の繋が

りを大切にしたいと思いました。

(副会長 豊泉君代)



講師 市川えみ子先生

### 串田副会長が 社会教育功労賞を 受賞しました



串田昭光氏の社会教育功労者表彰  
2016.12.11(ソシアス)

## 米田書記の ご冥福を祈ります

病気療養中だった本会書記の

米田保子さんが本年二月八日にご逝去されました。

故人のご冥福をお祈りするとともに謹んで関係各位にお知らせします。享年七十歳、余りにも若すぎる他界であり、残念でなりません。本協会においても

まだまだご活躍いただきたい人でしたので、彼女を亡くしたことが大変悲しく悔やまれます。

米田さんは、平成二十四年度

より書記を引き受けさせていただき、

以来五年間、協会の諸活動に力

を発揮して下さいました。書記

という役割を通じて本協会の広報誌の配布や各種の案内の発送

等にも尽力してくれました。本

協会が入つてある高崎スプリングエスティバルバザーの折、一生懸命活動する彼女の姿が記憶に残ります。  
いつも、にこやかで、柔軟な笑顔が似合う人でした。今は、在りし日の彼女を偲びつつ、そのご功績に感謝しているところです。米田さん 安らかにお眠り下さい。

平成二十九年三月一日  
高崎ユネスコ協会会長  
樋口 克己

### 世界遺産を訪ねて

広報副部長 三浦 芳夫

昨年末の十二月にインド、今年の二月にカンボジアを訪れた。

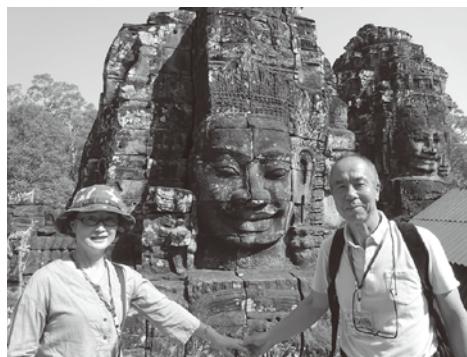
インドでは、首都デリー、アグラ、ジャイプールの三都市(ゴールデントライ앵グル)。

カンボジアでは首都 Phnom Penh とシェムリアップの二都市。

どの遺跡も想像以上にすばらしいものであった。その中でも特に印象に残つたのは、インドではタージマハルとアグラ城、カンボジアではアンコールワットとアンコールトム(写真①)であった。アンコールワットなどでは、日本政府や上智大学による調査や援助で遺跡の修復が行われているとの説明を受け、

嬉しく感じた。

カンボジアでは幸運なことに、私たち夫婦と現地の女性ガイドと運転手さんの計4人で、回ることとなつた。そのため、大勢ではできない経験を多数させていただいた。



①アンコールトムにて

竹筒にもち米と小豆を入れて蒸し焼きにしたもの、見たことのない熱帯の果物、クモやサソリなどの昆虫の料理、これらは移動中の道路沿いにあつた屋台や市場に停車してくださり、食べさせてくれたものである。また、ある屋台に、淡水魚の干物と一緒に犬の丸焼きが吊るしてあつたのには衝撃を受けた。ノンペンのある寺院では、「小鳥を2羽買い、願い事をしながら大空に放すと願い事が叶う」ということで、「家族の幸せ」という月並みな願いを込めて二

羽の小鳥を青空に放した。

都市間の移動は、六時間近くかかることが多かったが、その間は景色や人々の生活の様子を見ることに集中した。インドでは、近代的なビル群とスラム街が並存しており、経済格差の裏にあるカースト制度を考えずにはいられなかつた。また、日本から進出企業も含めて大きな工場が随所に見られ、産業化の勢いを感じた。

カンボジアでは、地平線まで見えるかと思われる広い農閑期の農地に牛が多数放たれ、のんびりと草を食んでいた。また、木々の下などでハンモックを吊るして昼寝している人々の姿を多数見かけた。街道沿いに立つ高床式の民家には、電線が渡され、ガイドさんによれば、テレビは自動車の中古バッテリーに繋いで観るということであった。

両国とも都市部の幹線道路は車とオートバイで渋滞する。しかし、両国で大きな違いがある。インドでは常にけたたましくクラクションが鳴り響いているが、カンボジアではそれがとても少ないのである。これは国民性の違いであろうか。

発展途上国を旅して、誰でも悩む問題に、物乞いや物売りの人たちにどう対処するかがある



②サンボー・プレイクリック

と思う。私は今まで、彼らへの態度で自分の価値観が問われているようで気が重く、出来る限り距離を置くようにしてきた。しかし、今回の旅行で少し自分の気持ちに変化が起きた。

カンボジアのガイドさんは、物乞いの人がいれば自然体でお金を渡し、物売りの少年・少女にも気さくに話しかけていた。私たちがカンボジアのサンボー・プレイクリックという遺跡でスカーフを買ったのは中学生の少女と小学生の少年だった。ガイドさんを通訳にして話をすると、世間離れていない、はにかんだ様子が愛らしいとともに控えめな子どもたちだった。今日初めてスカーフが売れた時の、少年の嬉しそうな表情が忘れられない。彼らとの触れ合いも、今度の旅行の大切な思い出である。

（写真②）

高崎ユネスコ協会は、「つなげよう・深めよう・広げようユネスコの心」をスローガンに、地域に根ざす活動の継続と発展を図ることを目指しています。

私は、平成二十四、二十五年の

二年間、高崎市教育委員会青少年課でユネスコ担当の非常勤職員として勤務しました。その二年間は、今まで関わったことのないユネスコ活動が多く仲間の協力により成り立っていることを知りました。そして、昨年（平成二十九年の）五月からは事務局長としてお世話をなり、もうすぐ一年間が経とうとしてい

## 一年を振り返つて

事務局長 岡部幹夫

あとがき

平成二十九年度が終わり、二十九年度へ入ろうとしている。ユネスコ活動のよい面は継続しつつも現状に甘んじることなく次の一步を踏み出したいと思う。

世界は毎日目まぐるしく変化し続けており、自らの座標軸がズレそうになることもある。そんなときは、「心の中に平和のとりでを築く」という言葉を思いで返している。

（三浦）

ます。

高崎ユネスコ協会では、四月

の昭和の日の「スプリングフェ

ステイバル」から、翌年の二月の

「児童画・作文合同表彰式」まで、

年間に十を超える事業を行い、

それぞれの活動が多くの会員の仲間を大切にし、さらにユネスコ活動を発展させていかねばなりません。高崎ユネスコ協会は、平成三十年に創立五十周年を迎える。まずは、これに向けて活動が重要です。会員の皆様には、この一年間大変お世話になり、感謝しております。もうすぐ、新しい一年が始まります。さらに、楽しい充実したユネスコ活動に考えてみたいと思っています。